

レッサーパンダの恋の季節

—レッサーパンダ繁殖に向けた取組—



飼育展示担当(動物専門員) 櫻庭 美千代

大森山動物園では、2026年3月現在、4頭(オス2頭、メス2頭)のレッサーパンダを飼育していますが、当園で生まれた7歳のオスのレッサーパンダ「ひなた」と、他園より来園したメスの「円実(まるみ)」「令花(レイファ)」との間で繁殖に向けた取組を進めています。

1 レッサーパンダの恋のサイン

みなさんはレッサーパンダの「恋鳴き」を聞いたことはありますか？レッサーパンダの繁殖期は冬の寒い時期なので、12月～3月頃が恋の季節です。恋の季節が到来すると、「キュー〜キュルキュルキュル…」と、とてもかわいい声で鳴くことがあります。これは、恋をしたい気持ちが高ぶると、オスとメスのどちらにも見られる恋の準備が整ったというサインです。

2 ひなたと円実、3シーズンのペアリング

当園での繁殖例は、2018年にケンシンとゆりの間に、かんとひなたのオス2頭が生まれたのが最後です。

かんは、2022年に鯖江市西山動物園に移動しましたが、当園に残ったひなたも、その頃には4歳と立派な大人になり、繁殖できる時期になっていました。そこで同年、札幌市円山動物園から2歳年上の「円実」をお嫁に迎え入れ、以来、この2頭のペアリングに取り組んできました。



2022年に来園した円実

おっとり優しいマイペースなひなたに対して、少し気が強めで我が道を行くタイプの円実ですが、相性は決して悪くありません。普段はひなたが隣で昼寝をすることさえ嫌がる円実も、繁殖期の冬になると、お互いに温もりが恋しいのか、距離は近くなり、尻を密着させたまま寝ることもあります。メスに興味をなさそうに見えるひなたも、冬は円実の何かを感じ取り、背中や腰の匂いを毎日こっそり嗅ぐようになります。円実が起きている時には「鬼嫁パンチ」(ひなたに対して気が強い円実の性格から、スタッフの間ではそのように呼んでいます)が飛んでくるので、隣で毛づくろいをして油断をさせ、その際に嗅ぐ作戦です。見守る飼育員としては、ひなたにももう少しアタック力を持ってほしいのですが、なかなか進展が見られません。そんな2頭は3回の冬を過ごし、恋鳴きや追尾までは確認できたものの、交尾には至りませんでした。

そこで、2025年4月に鯖江市西山動物園から新しいメスの令花(レイファ 6歳)を迎えました。令花は、温厚でありながら、一人遊びが上手なおてんばな女の子で、オスの前ではどんな反応を見せるのか楽しみでした。令花は新しい環境に順応しやすい性格なので、ひなたとすぐには一緒にせず、繁殖期直前に初めて2頭を同居させることにしました。





ひなたに対して強気な
円実が繰り出す「鬼嫁パンチ」



2025年に来園した令花

3 円実と令花、メス同士の同居を期間限定で実施

2025年9月、繁殖期までにはまだ時間があつたため、試しに円実と令花のメス同士を期間限定で同居させてみることにしました。他園から来た同性を同居させる試みは当園では初めてで、お互いどのような反応をするのか不安もありましたが、繁殖期の行動との違いなどを確認したかったことと、メス同士の同居で展示効果が高まることを期待して実施を判断しました。

まず、寝室を隣同士にして様子を観察したところ、お互いに匂いをしっかり感じ取りながらも、女同士のライバル心なのか、寝室内でのマーキングが2頭とも激しくなりました。その後、互いが見えるよう、室内で1週間お見合いをさせた後、外展示場での同居を開始しました。



期間限定で実施した令花と円実の「まんまタイム」

当初、「円実のほうが気が強いので、令花が攻撃されてしまうのではないかと心配していましたが、いざ同居が始まると令花のほうが強気で、円実に一撃パンチをお見舞いし、円実が走って逃げるという予想外の展開となりました。興味深いことに、ひなたと一緒にやってきた「まんまタイム」(飼育員がエサを与えながら、解説するイベント)でのリング争奪戦では、ひなたには度々鬼嫁パンチを食らわせてきた円実が、令花には1度も攻撃しなかったのです。その後、2頭は徐々に程よい距離感を掴んだのか、10月下旬まで大きな争いもなく一緒に展示することができました。この同居は、お互いにとって良い刺激になったと思いますが、担当としても新たな発見に繋がる試みでした。

4 新たなカップル ひなたと令花のペアリング

繁殖期が近付いた11月、いよいよひなたと令花の同居です。円実・令花の時と同様に、寝室でのお見合いを経てから外展示場での同居を開始しました。

2頭を一緒にしたところ、ひなたはそれほど気にする様子を見せず、いつもどおりの反応でした。一方の令花は、慣れないオスのひなたが怖いけれど、同時に興味津々でもあるという印象でした。2頭の気を紛らわすために展示場にまき散らした角切りリンゴを食べる途中、距離が近づき、令花がひなたを攻撃することが何度かありましたが、ひなたはほとんど応戦しませんでした。



おっかなびっくり令花(左)の威嚇

このような日々を重ねるうちに令花に成長が見られ、ひなたの5mほど後ろをゆっくり追尾したり、頻繁に凝視したりと、攻撃以外の行動を取るようになりました。さらに、勇気を出してひなたの目の前まで来て、何か言いたげな顔でのぞき込んだりするようにもなりました。

12月下旬からは、同じエサ入れからおやつを食べたり、一緒に並んで竹の葉も食べるなど、より一層距離が縮まってきました。令花がエサ入れを頭でブロックして一人占めしてしまうと、ひなたが抵抗し、「ルール違反!」と注意しているかのように見える場面もありました。昼寝の時には2頭が並んで寝るようにもなりましたが、令花の大事な一人遊びの時間になると、ひなたはやや離れたところから穏やかに見守るような行動も見られました。このように、時間とともに2頭のコミュニケーションは目に見えて増え、繁殖の成功に期待が高まりました。

今冬、ひなたは、円実と令花という2頭のお嫁さんとのペアリングで大忙しです。また、父親ではあるものの、高齢となり、繁殖から縁遠く見えるケンシンも、現在当園にいるレッサーパンダの中では唯一の繁殖した個体であり、恋愛の上では大先輩です。天候が安定している日は外に出て、息子の恋を応援するようにマーキングをして、若者3頭の刺激になってくれています。レッサーパンダ4頭で繋ぐ恋の季節がうまくいくように、今後も温かく見守りながら支えていきたいと思えます。



ひなたの後を追尾する令花



令花とひなたの距離は縮まり
繁殖への期待が高まります